



市内の小中学校ではこんな教育を行っています

●問合せ先 教務課教務係 ☎72-2111内線515

市内各小・中学校では、『生きる力』の支えとなる、知・徳・体の調和のとれた子どもを育成するために、日常的に校内研究を行っています。昨年の秋には、3つの小・中学校で研究発表会が行われました。各校の取組みを紹介します。

確かな言語力の育成をめざす 学習指導法の研究

東野小学校

東野小では、自分の考えを友達にわかるように話したり、互いの考えを伝え合ったりできる確かな言語力が身に付くように、授業づくりに取り組んでいます。研究発表会では、国語と理科の学習の中で、「説明する」「紹介する」などの言語活動を中心に位置づけた学習を行いました。

国語の学習では、子どもたちが、「伝えたい」「紹介したい」という目的を持って学習に取り組むことができるように、学習の最初に「図鑑をつくるう」「作品のよさを紹介しよう」といった学習課題を設定しました。子どもたちは、目的を持つことで、意欲的に自分の考えを友達に伝えたり、作品のよさを紹介したりすることができました。

理科の学習では、実験の結

果を予想し、見通しを持ちながら実験を行い、予想と結果の共通点や差異点を整理しながら決まりを見出す学習をしました。子どもたちは、自分の考えを図で表したり、キーワードや具体的な数値を使ったりして説明することができました。



作品のよさをまとめる様子

このように、言語活動を学習の中心に位置づけるながら、確かな言語力を育成する活動を行っています。



児童生徒の自尊感情を育む 教育活動の創造

立石小学校・立石中学校

立石小・中学校では、児童生徒の自尊感情を育むため、「やる気」「認め合い」「自信」を育成する取組みを連携して行っています。これは、

両校の校区内で実践されている学校の授業、家庭での取組み、地域活動などの特色を生かしながら、小中連携して取り組むことで、教育活動をより効果的に進めようとするものです。

例えば、立石校区安全マップを小中合同で作成する学習を行いました。小中学生が地域の協力を得ながら調べた危険箇所を出し合い、地図上にまとめる学習です。小中の異なる視点から見た危険箇所を出し合うことで、相互に新たな気づきが生まれ学習が深まりました。また、中学生はマップづくりのリーダーシップを取ることで「やる気」を高め、小学

生は作成したマップが地域などで活用されることで「自信」を深めることができました。

他にも、小中学校が連携した取組みとして、中学校の先生(家庭科・美術科)が小学校に教えに行くなど、中学校の先生の専門性を生かした授業が行われました。



安全マップづくりの様子

このように、「やる気」「認め合い」「自信」をキーワードに、小学校、中学校が連携しながら、児童生徒の自尊感情を育む教育活動を行っています。

今回紹介した研究発表会にも多くの教員が参加し、お互いの実践を通して交流しました。これからも、子どもたちの確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスよい育成に努めていきます。